

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171200266
法人名	特定非営利活動法人 大空の会
事業所名	グループホーム ありがとー
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字天建寺2096-3 (電話) 0942-81-9181

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年5月14日	評価確定日	平成20年8月4日

【情報提供票より】(平成20年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 8 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	15.7

(2) 建物概要

建物構造	木造従来工法造り 2階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,200~33,200 円	その他の経費(月額)	4,800 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000	円	

(4) 利用者の概要(4月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 69 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤吉内科 松岡病院 高森歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>周囲をのどかな田園風景に囲まれた平屋建てで、2ユニットのグループホームである。入居者中心は勿論、介護に対する人材の育成がいかに大事かも実感し、心＝行動＝チャレンジとこれ迄もこれからもホームとしての夢を大いに語らい、又、実行していこうという姿勢が窺える。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>入居者中心の家庭的雰囲気介護とホームとして、質の向上への取り組みを継続している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は各ユニット毎にチームで話し合いを持ちながら取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>幅広い立場の方に参加してもらい、参加メンバーからの積極的な意見や要望が聞かれるよう会議の更なる充実運営を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情箱、入居者個人連絡ノートの設置、準備はあるが投函、記入迄には至っていない。面会時に立ち話的になる事が多く、そこですぐ解決出来る事はその都度対処する方針である。今後は運営推進会議を利用するなどし、意見表出の機会づくりの充実を期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>一軒の家として回覧板も廻り入居者総てが地域住人と言う事もあり親類、知人、地区ボランティアや小学生の来訪等の受入れも出来ているが今後は待つだけでなく、自治会等地域活動行事にも積極的に参加する等、一層の交流が期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した事業所としての理念が作り上げられ、玄関入口に明示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は毎朝の申し送り時に理念の唱和を行い意識づけを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的に地区ボランティアを受け入れたり、小学生の訪問や、近隣の方の健康、在宅支援相談等を通じ地域との関わりが作られている。ホームとして理解が得られようとしている。	○	ともに暮らす地域住民の一員として地域で必要とされる活動や役割を担うことにより、事業所と地域の人々が支えあうような双方向の関係が一層充実されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義は十分理解し、よりよいホーム作りに取り組んでいる。今回は特に地域との交流の大切さを認識している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月1回定期的に地区ボランティア参加日に合わせて開催されているが事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、サービス評価と運営推進会議を結びつけるまでの取り組みには至っていない。	○	運営推進会議は、利用者、家族等地域住民、地域包括支援センターや行政の職員等幅広い立場の人が参加する会議とし事業所からの報告とともに参加メンバーから質問・意見・要望を受けたり評価結果や評価で明らかになった課題についても話し合うなど会議の一層の充実を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に対し、運営推進会議への参加を依頼するなどして関係づくりに努めているが、現在まで運営推進会議への参画までには至っていない。	○	現場や利用者の課題解決のためには行政の理解や支援などが必要な事も多く、そのためには、まず考え方や実態を行政担当者によく知ってもらい考え方や実態を共有できるように積極的な関係づくりを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回定期的に『ホームニュース』としてホームでの生活の様子等を写真入りで報告している。又、個々の連絡ノートも常備され家族の面会時に記帳出来る仕組みがある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には苦情相談窓口がある事を家族に説明している。また、玄関には意見箱を設置している。	○	相談や苦情があっても躊躇しがちな家族等の心理を十分に考慮し家族等が意見苦情を表せる機会や場があることを繰り返し説明したり、事業所側から意見等を積極的に聴くことが出来るような場面づくりの一層の充実を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の交代による利用者への影響を配慮し、各ユニットでは固定した職員を配慮している。	○	職員の離職や交代は利用者だけでなく家族等にとっても不安や不満を持ちやすい部分であり、異動や離職を最小限に抑えるための一層の努力や工夫を期待するとともに、交代前後の家族等への説明についての配慮も期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成の重要性を理解している。各種研修への参加を積極的に促し、ホーム内でも月1回定期的に福祉、ケアに対する勉強会を行ない、サービスの質の向上へと繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は各種研修会に出席し、外部の研修も情報交換、交流の場として日々の介護に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にホームの見学や日中の生活を体験したり又、宿泊も可能である。その後、家族、主治医とも良く相談した上での入居決定となっている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者中心の介護に努め、強制は行わない方針で本人のペースを優先している。入居者の一つ一つ出来る事を大切にケアに努めている。</p>	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者のこれ迄の生活歴を念頭に置きながら、思いや意向について言葉や表情から把握に努めている。要望があれば予定外でも出来るだけ要望に沿う様努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員を中心にして家族、職員の意見も取り入れながら確実に実践出来る介護計画を作成されている。当該計画の内容は家族へも説明し、同意も得られている。</p>	
	16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3ヶ月毎の計画の見直しを行い、その他状況に応じて主治医、家族と連携を取りながら現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の方の在宅支援、定期的な協力医療機関からの訪問診療と共に看護師の確保があり医療の分野で家族の安心へも繋がっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の24時間体制の確保がある。週2回は定期的な訪問診療も行われ、それが健康診断も兼ねている。他の医療機関へのかかりつけも可能で、家族と相談を行いながらその都度対処している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、主治医、職員の全員で、段階に応じた話し合いを行いながら、終末期看取りのケアを行った経験を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の介護では常に声かけを行いながらケアに努めている。特に排泄、入浴は1対1のケアを基本として『ホームニュース』に掲載する写真等にも家族の了解を得る等個人情報保護にも配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の身体適応に応じた、又、顔の表情、言葉から本人のペースを優先し、決して強制をしないケアに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体適応に応じて食事に関する一連の流れが職員と共に行われている。地産地消の食材が食卓に並び総て食器は、陶器を使用している。	○	共に暮らす家族として利用者と職員全員が、一緒に食事を楽しむ事が出来るような食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	プライバシーにも配慮がなされ1対1の支援である。基本的には隔日に午後からの入浴で入居者に対する福祉用具の準備も整い安心、安楽な入浴支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の生活歴等を念頭に置きながら自然に出来た役割分担(台所、洗濯、掃除)等を生かしての支援の仕方である。日常的な外出も楽しみ、気晴らしに大いに役立っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用者を含め散歩を日課としており気分転換や体力維持向上にも繋げている。又、日用品の買物、自宅の田畑への収穫等日常的に外出支援が行われている。季節毎の外出計画も立てられ実行されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は抑制並びに施錠の弊害を良く理解しており日中の鍵かけは行っていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の業者による消防設備点検が行われ行政へも報告がなされている。避難訓練も不定期に行われている。	○	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加や協力を得た避難訓練の実施にも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門職によるバランス良い献立が立てられ地産地消にも配慮した材料の調達である。食事、水分摂取量も個々の記録として分かり易く記入され、職員で共有化されている。又、温度にも配慮された湯茶がポットにも用意され、いつでも飲用出来る様になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られ木のぬくもり、高い天井、広い廊下、窓で明るく全く威圧感がない。随所にくつろげるソファと畳部屋があり調度品も家庭的に配置され日めくりカレンダー、昔風の大きな時計が目線に合わせ設置され、時の見当識にも役立っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の思いで居室によってバラツキはあるが自分の部屋と思う使い慣れた調度品が持ち込まれ居心地良く過ごせる工夫がある。家族の宿泊も行われている。		